

小1プロブレムへの具体的対応として新一年生全クラスへ補助教員の配置をすべき

保育園や幼稚園から小学校へ入学する時のハードルの高さは以前から指摘されています。以前は基本的な生活習慣、学習面、環境等の問題が指摘されていましたが、現在は、「先生の話を見ない」「先生が話している時でも教室の中を歩く」「自分のやりたいことをする」といった以前とは全く違った行動が見られ授業が成り立たなくなっています。このような状況は小1プロブレムと呼ばれています。

こうした事態を受け東京都教育委員会は都内の全公立小学校長1313人、教諭1313人を対象として平成20年度勤務した学校での状況を尋ねました。(東京都公立小・中学校における第1学年の児童生徒の学校生活への適応状況にかかわる実態調査)

その結果、「不適応状況の発生経験の有無」では23.9%。「発生時期と終了時期は」では4月が56.9%。年度末まで維持が54.5%。と校長が回答。

児童の様子では、

- * 授業中、勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外へ出て行ったりする。68.5%
- * 担任の指示どおりに行動しない。62.1%
- * 児童同士のけんかやトラブルが日常的に起きている。50.3%
- * 教育的な配慮や支援を要する児童に教諭が個別対応している間に他の児童が勝手なことをしている。50.0%

* 私語が止まず、ざわざわしている。42.7%

不適応状況を解決するために実施した対応策は？

- * 他の教諭が学級に入り協力した。62.7%
- * 管理職が学級に入り協力した。50.6%
- * 教育委員会による人的措置を受けて対応した。(非常勤講師等の派遣) 37.3%

不適応状況の発生の予防に効果的と思われる対応策は？(教諭の回答)

- * 学級担任の補助となる指導員等の配置。81.0%
- * 1学級の人数の縮小。80.7%
- * 保護者の協力体制の確立。59.6%

以上が実態調査の結果です。



これら調査における「小学校第1学年の児童の不適応状況」の定義

第1学年の学級において、入学後の落ち着かない状態がいつまでも解消されず、教師の話を見ない、指示通りに鼓動しない、勝手に授業中に教室の中を立ち歩いたり教室から出て行ったりするなど授業規律が成立しない状態へと拡大し、こうした状態が数ヶ月にわたって継続する状態をいう。

これら結果を踏まえ市川えい子議員は羽村市教育長に次の質問を行いました。

羽村の小学校における「小1プロブレム」の実態について伺う

教育長 2009年11月末までに授業中、勝手に教室の中を立ち歩いたり、教室の外に出て行ったり、担任の指示どおりに行動しない児童が在籍していた学級の割合は、市内17学級で11%という状況でした。なお、過去には学級経営が困難になり学級編成をやり直した実態もありました。教育委員会としてはこれまでこうした課題に対応するため、各小学校に担任の補助として学習サポーターや特別支援教育支援員を配置してきました。その他、羽村市教職員研修センターの指導員を、落ち着かない状況にある学級に派遣する等の対応を図り、学級経営の改善の支援に努めています。

来年度各学校における新一年生のクラス数と1クラス当たりの人数の見通しを伺う

教育長 平成22年度の市内の小学校新一年生のクラス数と1クラス当たりの見込み数ですが平成21年11月現在では、

- 東小学校が2クラスで 1クラス当たり34人
- 西小学校が3クラスで 1クラス当たり30人
- 富士見小学校が3クラスで 1クラス当たり35人
- 栄小学校が2クラスで 1クラス当たり39人
- 松林小学校が2クラスで 1クラス当たり21人
- 小作台小学校が3クラスで 1クラス当たり30人
- 武蔵野小学校が3クラスで 1クラス当たり31人と見込んでいます。



新一年生の全クラスに補助教員を配置すべきと考えるが市の考えを伺う

教育長 教育委員会では小学校1年生の児童の学校生活の安定や学習規律の確立には学級担任の補助となる支援員等の配置が効果的であると考えています。現在各学校には、学習サポーターや特別支援教育支援員を配置して、各学級の実態に応じて1年生の補助も行っています。また今後推進を計画しています小中一貫教育では、義務教育が始まる小学校第1学年において、学習習慣や生活習慣を確立することが重要と考え、副担任として東京都の非常勤教員または、市独自に採用した講師を配置することとしています。

小1プロブレムの対応については以上のような対応を図ることにより今後は、新一年生の全クラスに支援員等を配置することができると考えています。

無料法律相談 2月9日(火) 午前10時～ 弁護士が相談にあたります。 予約が必要です